

前回専門委員会における主な御指摘事項とその対応

番号	項目	ご指摘内容（要約）	対応
1	排水実態調査について	<ul style="list-style-type: none">・源泉の流量と排水の流量がわかれば希釈効果が情報として手に入るのではないか。・自然由来の超過地点の基準超過の要因はわかるか。・できるだけ不明が少なくなるようにしていただきたい。特に、源泉濃度が高いところはできるだけ排水濃度も知りたい。・データをやみくもに集めてもコストと時間の問題があるので、そのデータをどう使うのか十分検討した上で、効果的、効率的にやっていただく必要がある。単に負担をかけてしまうだけではない。	<ul style="list-style-type: none">・できるだけ不明が少なくなるように、引き続き自治体にご協力いただきながらデータの更新、精査を実施する。（現時点版は資料6）・追加で収集対象とするデータについては、その使用用途等を十分に検討した上で、自治体等の負担も考慮しながら収集する。

2	<p>実証試験・ 処理技術に ついて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・処理条件において滞留時間がわからないものがある。 ・ランニングコストの内訳があるとわかりやすい。 ・これまでの処理方法の中での組合せを考えてもいいのではないか。 ・実際に設置されている排水処理施設でどのくらいコストがかかっているか、どのくらい処理できているかというような技術情報とコストの情報を整理していただきたい。 ・コスト目標の根拠がもしあれば、調べていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ランニングコスト等の詳細が不明な内容について、実証試験実施事業者に問合せを実施し、可能な範囲でデータの充実を図る。 ・技術の組合せについて過去に実証試験に参加した事業者に打診する。 ・排水実態調査からスクリーニング（源泉よりも排水濃度が低い事業場）をした上で、ほう素・ふっ素の処理施設が設置されている事業場があるか自治体等に問合せを実施する。 ・コスト目標については、過去の検討会における委員のご意見を基に、処理技術の単価や温泉旅館が負担可能と思われる金額を勘案し設定したもの。ランニングコストは 100 円/m³ として算出されている。
---	--------------------------------	--	--